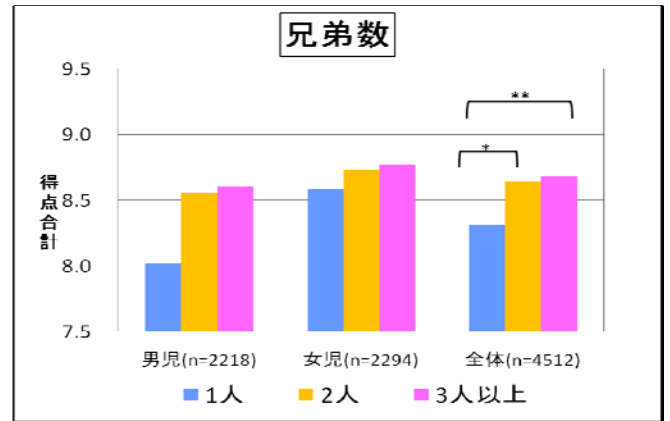
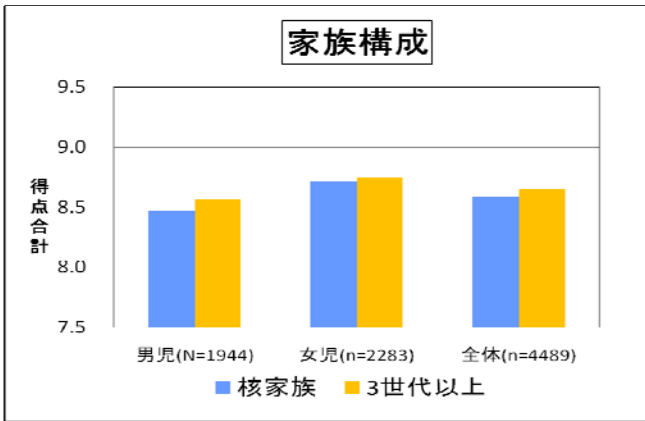


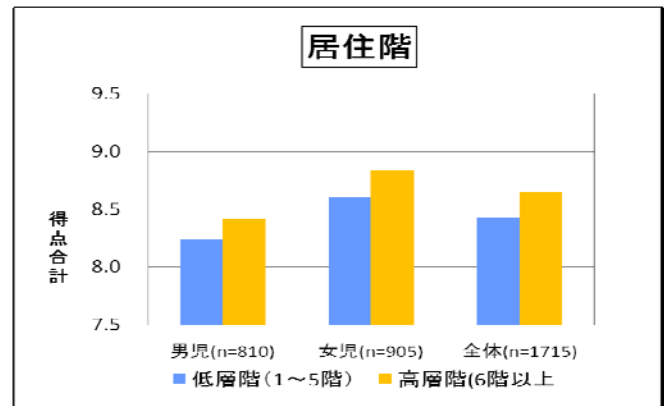
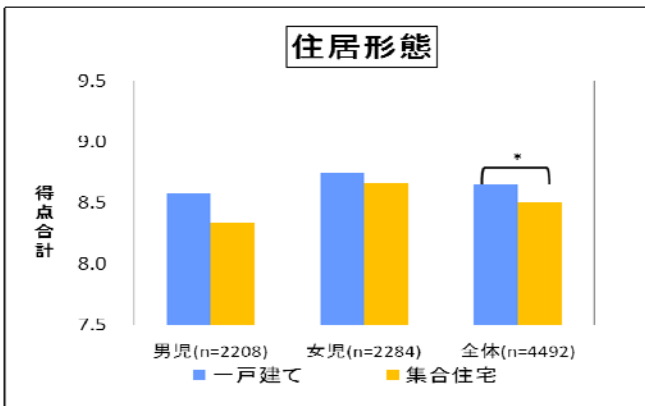
VIII-2 家庭生活による運動能力発達の比較

(1) 家族構成

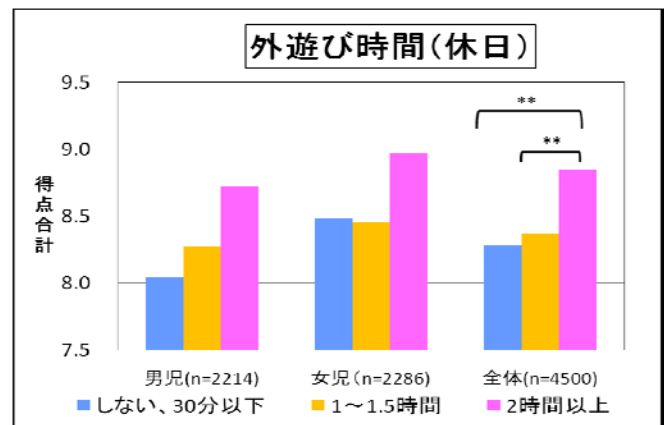
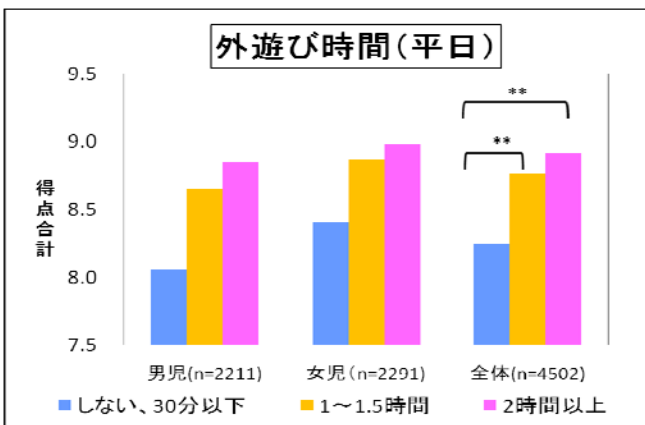
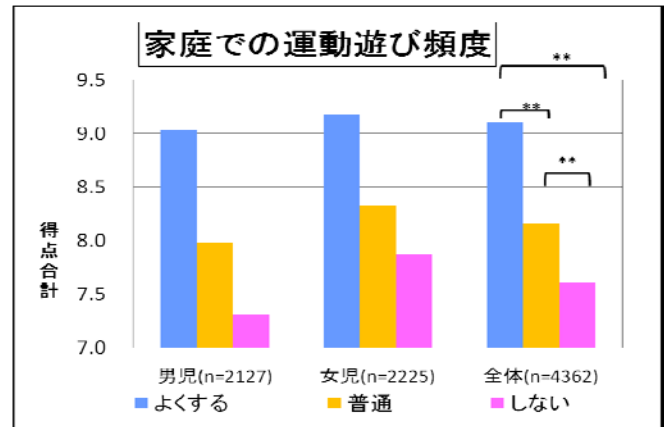
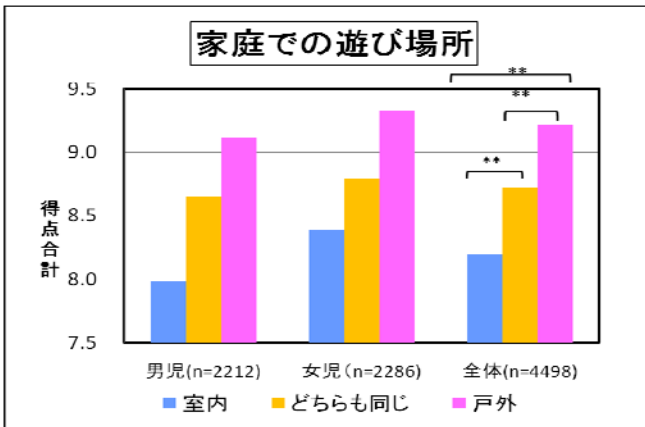
*p<0.05, **p<0.01

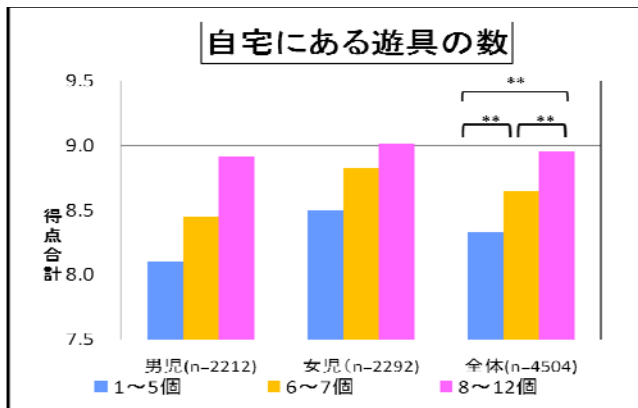
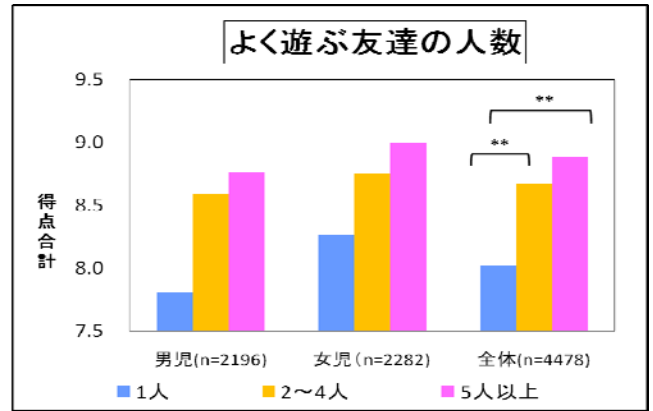
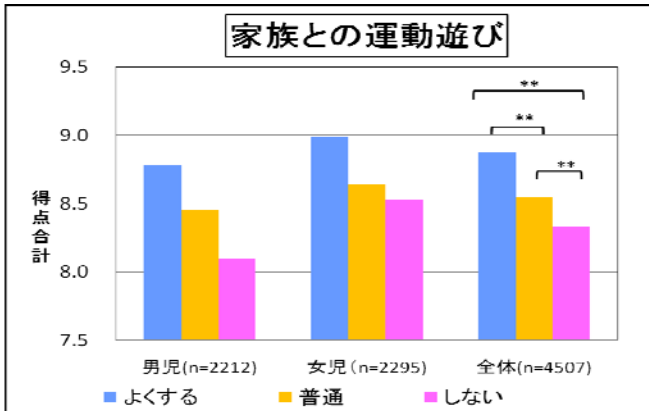


(2) 住居形態



(3) 家庭での遊び

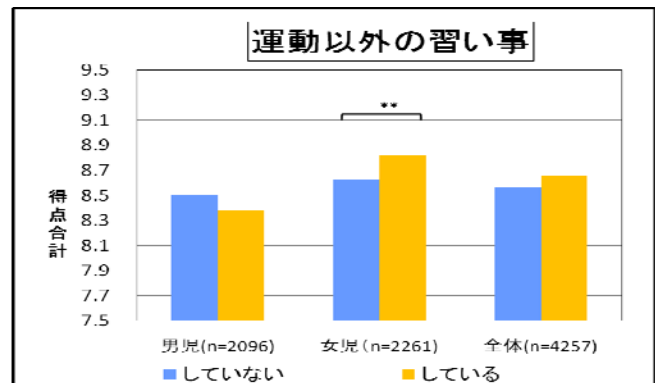
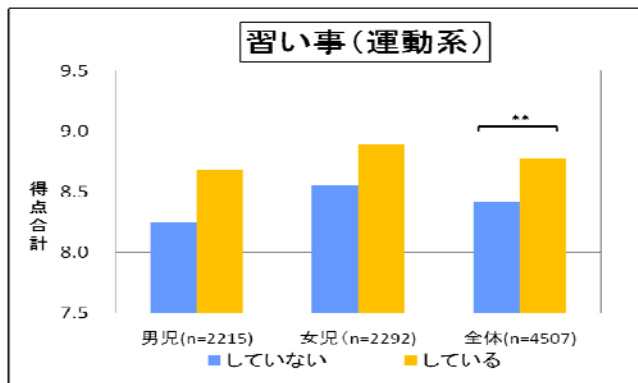




注1)
 グラフの縦軸は基本3種目合計評定点（昨年度作成した「柏市運動能力判定基準表」をもとに評定）

注2)
 図中の『*』『**』のついている個所は、有意差（統計上、確率的には偶然とは考えにくい意味のある差）が認められたグループ

(4) 習い事



(1) 家族構成と運動能力発達

○兄弟の数：兄弟の多い園児が他よりも運動能力が高かった。

(2) 住居形態と運動能力発達

○住居形態：一戸建ての園児が集合住宅より運動能力が高かった。

(3) 家庭での遊びと運動能力発達

- ①遊び場所：戸外でよく遊ぶ園児が他よりも運動能力が高かった。
- ②運動遊びの頻度：家庭でよく運動遊びをする園児がそうでない園児より運動能力が高かった。
- ③外遊び時間：外遊びをする時間が長い園児がそうでない園児より運動能力が高かった。
- ④家族との運動遊び：運動遊びをよくする家庭の園児はそうでない園児より運動能力が高かった。
- ⑤友達の数：よく遊ぶ友達の多い園児が他よりも運動能力が高かった。
- ⑥遊具の数：自宅にある遊具の数が多いう園児が他よりも運動能力が高かった。

(4) 習い事と運動能力発達

○習い事：運動系の習い事をしている園児が他よりも平均得点が高かった。また、女児の場合は、運動以外でも習い事を積極的に行う園児は平均得点が高く、活動的であるとも考えられる。

以上から、兄弟姉妹や一緒に遊ぶ友達が多い、家庭でも外遊び時間が多い、家族と一緒に運動遊びをする、運動系の習い事をするなど、日常的に活発に活動する家庭環境の園児は、運動能力が高いという傾向が明らかになったと言えるのではないかと思う。